

いきるあなたはそれだけで

えがおがひらひらとんでゆく
かなしいことをみとおして
うれしいことをこころにひめて
あおくまばゆいそらのひかり

ふわふわとどこへでもとんでゆく
じつぎいするいきものとしてのわたし
やさしいあなたのいのちを
すきとおるはなびらでそっとすくう

せかいのみんながうたっているので
わたしはげんざいにいきている

にんげんは
あのふかいそらにだってなれるから
かのうせい
あなたのなかにいつもある
そしていまいきているこのいのちをもらった
それだけでわたしは
じゅうぶんにしあわせ

はるかこころがうちよせて
かけあがるつよいちからで
あなたのまなざしはわたしをつうかして
いつかみたせかいへむかっているから

いきているあなたはそれだけで
せかいをあいしているとかたりだす
みつめるめをもったひとりとして
みいだせるうちゆうはあなたから
あなたからはじまる

大阪芸術大学詩誌「別冊・詩の発見」第二号 寄稿作品